



## <産地間競争に打ち勝つ5～6月咲き小ギクの育成>

### ～低温期の茎伸長性に優れた新品種 ‘春日R1’ と ‘春日W2’ ～

2018年に品種登録された5～6月咲き小ギク‘春日Y1’と‘春日W1’に続き、新たに‘春日R1’と‘春日W2’を育成しました(図1、2)。これらは他県の冬春産地と競合する端境期の5～6月に開花し、春先の低温下でも茎が伸びやすく、切り花長を確保しやすい特性があります。

#### 1. 背景と目的

本県の小ギクは5～12月にかけて出荷されており、全国第2位の生産量を誇ります。出荷始めの5～6月は冬春産地との端境期にあたり、産地間競争が厳しい時期ですが、この時期の小ギクは低温期に生育するため、切り花長が短いことが問題となっていました。そこで、当センターでは、茎伸長性に優れた5～6月咲き品種の育成に取り組みました。

#### 2. 研究成果の概要

‘春日R1’と‘春日W2’は、低温下での茎伸長性に優れた秋ギク型品種と5～6月咲きの在来品種とを交配して得られた中間母本から育成した品種です。2014～2015年に種子親に中間母本、花粉親に在来品種もしくは中間母本を用いた交配を行い、得られた実生を開花時期と切り花特性により、センター内ほ場で選抜しました。さらに2018～2022年にかけて県内2～9か所で現地試験を行い、いずれも茎伸長性に優れたことを確認したうえで、2023年3月28日に品種登録出願を行いました。



図1 ‘春日R1’



図2 ‘春日W2’

‘春日R1’は5月下旬から6月上旬に開花する赤色品種(RHSチャート72A)です。在来品種の‘あかね’や‘清姫’と比べて花数が16とやや多く、茎伸長性がよいため100cm程度の切り花長を確保できます(表1)。

‘春日W2’は6月上中旬に開花する白色品種(RHSチャートNN155C)です。‘川風’より開花は遅いものの、草勢が強いため栽培しやすく、120cm程度の切り花長を確保できます(表1)。現地では、同色の‘春日W1’に比べて白さび病に強いという評価も得ています。

表1 ‘春日R1’ と ‘春日W2’ の切り花特性

調査項目	春日 R1	対照		春日 W2	対照 川風
		あかね	清姫		
開花日(月/日)	6/4	6/5	5/22	6/14	5/27
切り花長(cm)	103	97	89	122	97
切り花重(g)	51	63	49	62	66
花数(輪)	16	12	10	16	17

2020～2022年の3か年平均

#### 3. 実用化に向けた対応

キクの育種にあたっては、県内の生産者団体やJA、県等の関係機関を構成員とする「キク品種選定普及会議」において、選抜の初期段階から育成系統の評価を行っています。‘春日R1’と‘春日W2’は同会議において茎伸長性に優れたことが評価され、2023年から県内で営利生産が始まりました。当センターでは、引き続き関係機関と連携し、有用な特性を持つ品種育成に努めたいと考えています。

(育種科 虎太有里)